

歴史の道

護佑丸の昔
ハント道修復
代々に保る

中頭方東海道「ハント道」

昔を今に伝える道、栄華をたたえた歴史の道を今に・・・。

中頭方東海道「ハント道」～歴史の道と沿道の文化財～

歴史の道「中頭方東街道」は、首里城を起点とし西原町の幸地グスク、中城村の新垣グスクを経て、中城グスクを通過し、勝連グスクにいたる王朝時代の道です。
グスク時代には、グスクとグスクを結ぶ道・地域間を結ぶ道として、同盟するものにとっては人や物の交流の道、敵対するものにとっては戦の道として使用されていました。
道幅は、狭いところが四尺（約1.2m）広いところで九尺（約2.7m）あり、戦前までは両側に松並木が続いていたと言われております。
中城村では、村内区間の「中頭方東海道」を丘陵東側の崖沿いを通っていることから通称「ハント道」と呼んでいます。
ハント道の沿道には、「ペリーの旗立岩」や「新垣グスク」、「キシマコノ嶽」、「161.8高地障地」、「安里村壱里山」など多くの文化財が点在しており、気軽に歴史散策が楽しめるコースとなっています。

中城グスク



ペリーの旗立岩(中城村指定史跡)



1853年、那覇港に来港したペリー提督一行が沖縄本島の奥地と東海岸を探検するため、首里城から中頭方東海道を通り北上する途中、岩山のそばで休憩をとりました。その際、岩山に星条旗を立て祝砲を打ったという事由来で、この名が付けられました。

県道開削記念碑(中城村指定史跡)



この記念碑は、昭和9年に地元(新垣)の青年団によって建立されました。かつて、当地域は地勢厳しく、物資の移出入は馬の背と人の肩に頼るほか無く困苦の生活を強いられていました。その歴史と県道開削に際するまでの経緯及び伊佐善俊親子の尽力がこの碑には記されています。

中頭方東海道「ハント道」道なり



凡 例

- 歴史の道
ハント(端)道
- 歴史の道
バンジュ(番所)道
- 本来のルート
(通行不可)
- 文化財
(有形民俗・史跡・その他)

ウチバラノ殿



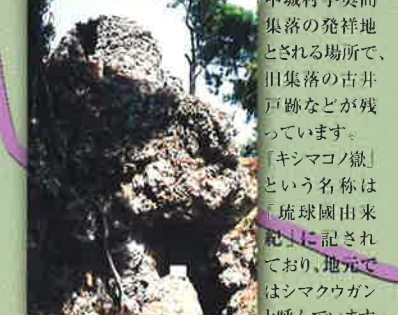
1713年琉球王府により編集された「琉球国由来記」に記されている祭祀場です。大正期まで、この地域一帯を管轄していたヨキヤノロ(祭祀を行う神女)によって祭祀が行われていた場所です。

新垣の石橋



昭和17年頃、当地域の石工が徴兵で残った老人婦人と共に亀甲墓の技術を駆使して造ったと伝えられている石橋です。

キシマコノ嶽



中城村字奥間集落の発祥地とされる場所で、旧集落の古井戸跡などが残っています。「キシマコノ嶽」という名称は琉球国由来記に記されており、地元ではシマクウガンと呼ばれています。